

事業名

おそきの空き家に住みたい♪かなえたい♪プロジェクト



「人口減少時代の実家家屋はどうすべき？ ～空家にしないために～」講演会

1 実施団体

おそきの学校と地域を考える会

2 担当課

住宅課、シティプロモーション課

3 実施時期

令和5年8月～令和6年3月

（市民提案協働事業としての実施期間はこの期間だが、協働事業として令和6年度も事業を継続する）

4 参加者

協力：自治会連合会第6支会

参加者：小曾木地区での事業だが、講演会は青梅市全域に展開実施

5 実施場所

小曾木地区。講演会は青梅市全域に展開実施

6 事業の目的

小曾木地区への移住者増加と空き家減少のために

1)小曾木地区で地域に密着した存在である提案団体が、空き家の全数把握を実施の上、空き家提供に関するプリントやアンケートを青梅市と連携して作成する

2)青梅市側が空き家所有者へ上記プリント等を送付し状況を把握する

- 3) 空き家所有者に団体と青梅市とで面会し、困りごと等をヒアリングの上、こちらの思いもお伝えする
- 4) 青梅市の補助事業も呼び水に空き家バンク登録を促進する
事業終了後に良かった点や改善点を検証し、市内全域へ展開していくことにより、青梅市全体の移住者増加と空き家の減少につなげる

7 役割分担

・団体の役割

- 1) 第6支会と協力して各地域の空き家と思われるお宅の確認
- 2) 空き家を賃貸・活用・空き家バンク登録などへつなげて欲しい趣旨のプリントやアンケートの作成
- 3) 所有者が青梅市住民だった場合、市職員同席含めて検討し最善な方法での面会
- 4) 移住希望者がいた時の情報提供・情報共有・地域紹介おもてなしの協働実施

・担当課の役割

- 1) 青梅市の空き家対策事業についての個人情報でない一般的な情報提供
- 2) 空き家の持ち主への考える会の気持ちを込めた文書の発送
- 3) 持ち主との面会を行う場面での最善と思われる場合の同席と空き家事業の紹介
- 4) 空き家提供につながったときの移住希望者への情報提供・情報共有・地域紹介おもてなしの協働実施
- 5) 当協働事業終了後に、その効果や結果について他の青梅市支会への説明の場の設定（支会長会議の場をイメージ）
- 6) その後の各支会での同様な動きの積極的なサポート

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

現在、事業が終了した状況にはないが、自治会第6支会の協力で地域の空家の状況がかなり把握できたとともに、自治会長などの地域の方々の意識が住民減少状況がこのままではいけないとの危機感高揚につながって防災や学校支援など他の活動への波及効果も感じる。令和6年度に通常の協働事業として空家減少と移住希望者への情報展開などを進めたい。

9 目標達成

事業の目標：

- 1) 小曾木地区の空き家の全数状況把握
令和3年3月青梅市調査で小曾木地区の住宅に63棟の空き家あり
- 2) 持ち主の方に考える会が作成したアンケートを青梅市が送付し、こちらの思いを伝えるとともに持ち主の方の困りごとなどに対応して空き家を貸借・活用へとつなげる

目標の達成具合：

- 1) 小曾木地区の空き家の全数状況把握について
自治会連合会第6支会の協力を得て59件の空家情報を取得。ただし、マンションの空室3は空家カウントには入らないため、空家の可能性の高い棟数としては56棟の情報数を得られた。情報は住宅課へ伝えその後の住宅課による確認につなげた。数としては9割方が把握できたものと感じるとともに、すでに対応を開始されている方も居り住める空家は減少方向にあるように感じた。
- 2) 持ち主へのコンタクトについて
考える会で作成した思いを込めた手紙と住宅課・シティプロモーション課で作成した資料・手紙・アンケートを空家と確認できたお宅の所有者等へ送付した。
その後の動きはまだ取れていないので今後検討したい。

10 事業の実施内容

- 1) 小曾木地区へ空家事業を実施する旨の地域回覧を実施
- 2) 自治会連合会第6支会の協力で各自治会の空家確認実施
- 3) 空家と思われる住宅情報を住宅課へ連絡
- 4) 住宅課にて空家かどうかの確認を実施
- 5) 空き家の持ち主への協力依頼のお手紙を考える会で作成
- 6) 空家の所有者等へ送付
- 7) 「人口減少時代の実家家屋はどうすべき？ ～空家にしないために～」をテーマとした講演会を市役所2階会議室で開催。約30名の参加。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

| 調査項目 | 団体 | 住宅課 | シティプロモーション課 |
|--------------------------------|----|-----|-------------|
| (1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた | 3 | 3 | 3 |
| (2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された | 4 | 3 | 4 |
| (3)協働の役割分担は適切だった | 3 | 3 | 3 |
| (4)協働相手は適切だった | 4 | 4 | 4 |
| (5)対等な立場での協力関係を築けた | 3 | 3 | 3 |
| (6)協働相手の自主性・自立性は尊重された | 3 | 3 | 3 |
| (7)事業実施は円滑になされた | 3 | 3 | 3 |
| (8)設定した目標が達成された | 2 | 2 | 2 |
| (9)協働で行うことにより効果がある事業だった | 4 | 4 | 4 |
| (10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った | 3 | 3 | 3 |

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

事業途中であり令和6年度も継続して予算は付けない協働事業として進めたい。自治会連合会第6支会の協力が得られ、情報の取得はある程度できた。ただし、個人情報問題は思った以上に壁となり、住民側からの積極的な動きを削ぐ形にもなっている。

また、講演会より空家の問題は法令や基準が様々関わることをより強く感じた。そして、空家対策には地域の良さ自らが理解しを売り込む視点と熱意を強く持たないと進まないとも感じた。

限られた時間の中で十分な事業ができきれていないが、それが空家対策の難しさでもあり簡単に解決できるものでもないとも感じた。今後も継続して地域の空家対策と人口減少の抑止を進めたい。

13 その他

今後については事業継続中との認識から、現在は終了後の話し合いをする進捗ではないと思っている。設定目標も現状の進捗では達成度は低いと思っている。

以上